

保育学科

職位	役職	氏名
教授	科長	照井 裕子
教授	副科長	鈴木 弘充
教授		高木 友子
教授		多胡 綾花
准教授		赤井 裕美
准教授		池田 拓馬
准教授		小笠原 大輔
准教授		亀井 美弥子
准教授		高橋 雅人
准教授		田中 あかり
講師		平岡 秀美

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	教授		
教員氏名	照井 裕子		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許の取得に関連した科目を担当している。中でも「心理学」及び「子育て支援」の分野が担当である。私は将来保育者を目指す保育学科の学生が、他者の視点に立って物事を理解し自らの行動につなげていくことが重要であると考えている。そのため、「保育の心理学」では主に子どもの発達段階に応じた心理の理解を目指し、子どもの立場に立って子ども理解ができる力を養うことを目指している。また、「子育て支援」では、主に保護者の立場に立ち支援を展開できる力を養うことを目標としている。私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて子ども及び保護者に寄り添い保育・支援を行うことのできる保育者を養成することであるとと考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1. 将来保育者として活躍するにあたり、人とのかかわりを大切にし、相手の視点に立つことができるような経験の充実
2. 保育現場で求められる保育実践力の育成
3. 保育実践を意識した学びの提供

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得にかかわる「保育の心理学」を通して、優れた保育実践を基にした事例等を用いながら保育者として求められる子どもの発達理解やそれを支える保育者のかかわりについて教授し、学生の保育実践力につながる基礎づくりをおこなっている。また、「保育の心理学」のほか、保育士資格取得に関わる「子育て支援」では、保育者に関わる子どもや保護者等といった他者の立場に立って考える視点を積極的に学生に提供し、自ら考える機会を得られるよう工夫しながら授業を行っている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2024年度の学生による授業評価アンケート結果は、「子育て支援」及び「保育の心理学」において、事例を通じた理解の深化があった点について学生から評価された。また、担当各科目において、ワークを取り入れるなど学生が主体的に学べる授業づくりの工夫を行った。この点についても学生の授業評価におけるコメントが得られており、学生参加型の授業づくりが実現できたものとする。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取り組みとして、相互授業参観の機会を積極的に活用し、他の教員の授業内での取り組みや工夫を参考にしている。また、自分の授業に対する教職員からのコメントについても活用し、授業の見直しをはかっている。

今後の教育に関する短期目標は、クラスサイズの変更に伴ったより有効な教授方法を検討する事である。長期目標は、教育におけるDX化を踏まえ、担当科目における効果的な学修方法の構築することである。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜1限 保育の心理学_a/2【照井 裕子】31317501】

グループワークを多数取り入れ、学生同士が意見を出し合い考えられるような時間を設けた。また、基本的には毎回コメントシートを使用し、質問や感想を提出させ、質問に対しては翌週の授業冒頭でフィードバックを行うようにした。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜1限 子育て支援_a/4【照井 裕子】31328501】

担当するほか科目では毎週学生からの質問を掬い取れるようにしていたコメントシートの活用が、本授業では十分に仕切れなかった点は課題であり、今後は他授業同様にコメントシートの活用をより積極的に行っていく。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜3限 子育て支援_b/4【照井 裕子】31328502】

事例を多用して保育者の行う子育て支援の実際について触れる機会を多く設けた。また、さまざまな支援の可能性や方向性を柔軟に考える態度を身につけることを目的に、グループワークを多く取り入れクラス間での意見交換を行う機会を多く設けた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜2限 子育て支援_d/4【照井 裕子】31328504】

同一科目においてもクラスにより授業評価の傾向に若干の違いがみられた。クラス別に雰囲気や理解度が異なることを念頭に、これまで以上に各クラスの反応を見定めた授業の展開を行う。授業内で他者の意見や視点を知り自らの考えを深めてもらうための方法として、グループワークを頻繁に行っているが、クラスによってはグループワークに代わる方法が適しているケースもある可能性がある。こうした点も含めてクラス別の授業の展開を検討していく。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
通年	保育	2	31328501	子育て支援
通年	保育	2	31328502	子育て支援
通年	保育	2	31328503	子育て支援
通年	保育	2	31328504	子育て支援
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360004	保育実践研究
前期	保育	1	31317501	保育の心理学
前期	保育	1	31317502	保育の心理学
後期	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
通年	保育	2	31328501	子育て支援
通年	保育	2	31328502	子育て支援
通年	保育	2	31328503	子育て支援
通年	保育	2	31328504	子育て支援
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360004	保育実践研究
前期	保育	1	31317501	保育の心理学
前期	保育	1	31317502	保育の心理学
後期	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	教授		
教員氏名	鈴木 弘充		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に障害児・者に関わる科目を担当している。2024年度の担当科目は、別記の通りである。
「特別支援教育(障害児保育を含む)」では、障害児やその家族について理解を深め、関わりの基礎を身につけることを目標としている。
「社会的養護Ⅱ」では、社会福祉施設における保育士の役割について、事例を通して考察することを通して、主体的に考え行動できる保育者になる基礎を身につけることを目指している。
私の教育の責任は、将来保育者として職務に就くための基礎を身につけさせることである。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 保育者として必要とされる基礎知識の伝達
- 2) 広い視野と想像力の醸成
- 3) 柔軟な思考力と課題解決能力の醸成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、教育の理念を実現するため、担当する授業において、以下の方法を行っている。

- 1)「特別支援教育(障害児保育を含む)」では、障害児やその家族に関する基礎知識を伝達するため、主な障害について、映像資料を積極的に活用しながら、その要因、特性、関わり方の基礎的な知識を解説している。
- 2)「特別支援教育(障害児保育を含む)」、「社会的養護Ⅱ」では、広い視野や想像力を身につけられるよう、様々な障害特性や養育環境について解説している。
- 3)「特別支援教育(障害児保育を含む)」、「社会的養護Ⅱ」では、柔軟な思考能力と課題解決能力を醸成させるために、問いかけや事例検討を活用している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2024年度の学生による授業評価アンケートの結果は、おおむね平均的であった。映像資料の活用や、授業内容を精査し、授業時間にゆとりを持たせることによって、学生に具体的なイメージを喚起させ、思考させる時間を十分確保できたことが、結果につながったと考えられる。

学生支援については、2年生に対して就職活動への指導・対応を迅速に行ったことが成果として挙げられる。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜4限 特別支援教育(障害児保育を含む)_c/3【鈴木 弘充】31325003】
映像資料を活用したこと

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜1限 進路・生活指導_全【鈴木 弘充】23360501】
授業の進め方について、丁寧に繰り返し伝える

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23320501	青年心理学
前期	保育	2	31325501	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325502	社会的養護Ⅱ
後期	保育	2	23340001	保育・教職実践演習(幼稚園)
通年	保育	2	R3360001	保育実践研究
通年	保育	2	23360501	進路・生活指導
通年	保育	1	31325001	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325002	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325003	特別支援教育(障害児保育を含む)
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23320501	青年心理学
後期	保育	2	23340001	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23353501	保育実習Ⅲ
前期	保育	2	23354001	保育実習指導Ⅲ
通年	保育	2	R3360001	保育実践研究
通年	保育	2	23360501	進路・生活指導
通年	保育	1	31325001	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325002	特別支援教育(障害児保育を含む)
通年	保育	1	31325003	特別支援教育(障害児保育を含む)
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	教授		
教員氏名	高木 友子		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として主に保育学に関する授業を担当している。2024年度の担当科目は別記※のとおりである。

保育学は将来保育者となる学生の保育の基礎となり、さらに専門的な知識と技術を養うものであり、保育者たるべくそれらを確かに身につけられるように指導している。

「保育原理」は講義を通して子どもと保育についての基本的な知見と保育に必要な態度を身につけることを目標としている。

「保育・教育課程論」は講義と指導案作成を通し、教育課程の意義と編成方法、指導案作成の実際を学ぶことを目標とする。

「保育実習指導Ⅰ」は講義・演習を通して、実習と実習園についての知識を得、実習の準備を進めることを目標とする。

「保育実習Ⅰ（保育所）」は1年次の資格取得科目の学習内容を保育現場で実践することを通して、保育所と保育士の役割を理解し、2年次の学習課題を見出すことを目標とする。

「人間関係の指導」は講義と演習を通して、領域「人間関係」のねらいと内容と指導方法を学ぶことを目標とする。

「保育実践研究」は作成や実演を通して、主に言語に関わる児童文化財について学び、知識と技術を身につけることを目標とする。

「保育実習指導Ⅱ」は「保育実習Ⅰ（保育所）」の省察を通して課題を見出すと同時に「保育実習Ⅱ」の準備を進め、「保育実習Ⅱ」終了後の省察を通してその後の課題を見出すことを目標とする。

「保育実習Ⅱ」は保育現場での実習を通して、保育所と保育士の職務の学びを深め、実践力を身に着けることを目標とする。

「保育・教職実践演習」は演習を通して、保育者としての使命感や責任感、社会性や対人関係能力、保育内容の指導とクラス運営能力、幼児理解と対応の能力を身に着けることを目標とする。

私の教育者としての責任はこれらの教育活動を通じて、社会に貢献できる保育者を育てることである。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

本学科の卒業生は殆どが保育者として勤務する。そのため、私が教育活動を通して学生に望むことは子どもを愛し、理解し、尊重することの重要性を理解し、それを実践できる人材を育てることである。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業実践上の注意点は以下の通りである。

- 1)「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ」では子どもを愛し、尊重する保育を実践している実践園を選考するよう努める。
- 2)「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」では実習を成功させるべく、具体的な学びと保育現場で働く保育者からの講話を取り入れる。
- 3)「保育原理」「保育・教育課程論」「人間関係の指導」「保育・教職実践研究」では具体的な子どもと保育者の姿の紹介に努める。
- 4)「保育実践研究」では可能な限り実際の子どもの活動をとり入れる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度「保育・教職実践研究」では学生主体となり、湘北祭と麒麟保育園での演劇公演を実施した。企画から学生主体であり、ワークショップを経て舞台を作り、観客の前で実演し、また改善し、再演するというPDCAサイクルを経験することにより、学生の達成感が非常に高まり、観客からも好評を得た。

学生支援に関して2年生は一人一人のニーズに寄り添い、希望就職100%を達成したことが成果である。1年生についても経済的事情や大学生活への適応など不安を抱える学生一人一人のニーズに合わせた援助を行った。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

1年生においては学習内容のフィードバックを、2年生に関しては実践の機会を重んじたい。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
通年	保育	2	23322501	人間関係の指導
通年	保育	2	23322502	人間関係の指導
通年	保育	2	23322503	人間関係の指導
通年	保育	2	23322504	人間関係の指導
後期	保育	2	23340002	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360002	保育実践研究
前期	保育	1	23314001	保育原理
前期	保育	1	23314002	保育原理
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
通年	保育	2	23322501	人間関係の指導
通年	保育	2	23322502	人間関係の指導
通年	保育	2	23322503	人間関係の指導
通年	保育	2	23322504	人間関係の指導
後期	保育	2	23340002	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360002	保育実践研究
前期	保育	1	23314001	保育原理
前期	保育	1	23314002	保育原理
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	教授		
教員氏名	多胡 綾花		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、「身体表現」「表現の指導」「健康の指導」など、専門科目を担当している。加えて「教育実習指導」「教育実習」などの教育実習担当の代表を務めている。資格や免許を取得を目指す保育学科の学生が、二年間で86単位を取得して卒業できるように、質の高い授業やきめ細やかな学生指導に注力している。各科目については以下である。

「身体表現」では、学生自身があそびを体験することで保育者としての視点や援助方法を学ぶことを目標としている。「表現の指導」では様々な表現やあそびに触れ、答えは一つではないこと、子どもと共に創る保育に到達できるように目指している。2024年度から担当している「健康の指導」では領域「健康」の内容を主に取り扱い、実践的な内容を取り扱っている。また「教育実習指導」においては、複数教員で徹底指導を行い、一人ひとり異なる実習先や内容に応じて、きめ細やかに対応している。

また「表現発表プロジェクト」担当、1年次後期湘北祭、2年次前期新入生歓迎オリエンテーション、2年次保育実践研究を行なった。湘北祭コロナによる中止から復活した2年目、新しいプロジェクトのあり方の模索が求められた。多様な思いや背景を抱える学生がいる中で、これら活動がどう保育の学びに繋がるかを言葉を尽くして学生たちに説明し、納得しながら活動できるように配慮した。学生たちもプロジェクトの意義を理解し、人と関わるのが苦手な学生も前向きに取り組み、達成感を感じることができた。学生支援では7班を担当している。特に現1年生は欠席がちな学生、急に病気に倒れた家族のいる学生、精神不安定な家族を抱える学生など、担当人数は少ないがサポートが必要な学生が多いので、学科の先生方と連携して学生支援を続けていきたい。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、保育現場で真に活躍できる保育者養成のために、以下の3点を重視している。

- 1) 自ら体験・実践すること、そこから得る気づきと発見
人から与えられる知識だけではなく、自ら体験・実践したことから自分なりの考えや見方を持ってほしいと考えている。まず自分がやってみて、気付くこと、次はどうしたらいいかを考えることを重視している。
- 2) 人と関わりながら、共同で活動すること、そこから広がる発想や視野
保育は様々な立場の人と協力しながら進めていくものである。狭いものの考え方に陥らないように、柔軟に人の意見にも耳を傾けること、人と一緒に一つのものを作り上げることで一人では生み出せなかった世界や境地に辿り着いてほしい。そのため、最近の学生たちが苦手としている、グループワークや共同作品づくりを取り入れている。
- 3) 新しい保育を自ら生み出すことができる想像力と創造力
人から与えられたものを実行できるだけではなく、新しい価値や世界を創り出す保育者を目指し、自身が面白い、楽しいと思う気持ちを大切に、まずはやってみた感想、それらの振り返りを大切にしている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、次のような授業を行っている。

- 1)「身体表現」では保育現場で行われている実践的なあそびを取り扱う。あそびを学生自身が体験し、授業後に振り返りとして、子どもの目線であそびを捉え直し、また保育者としてどのように配慮や留意したらいいのかをまとめる、主体的な学びに力点を置き、「身体表現ノート」作成をしている。また「身体表現」、「表現の指導」では、ペアによる模擬指導を授業の柱としている。指導案作成を通して、他者の発想や考えに触れ、他者と自分の意見を折衷しながら、一つのあそびを作り上げるが、保育はチームで進めていくものであるため、このような他者との活動やグループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、他者と協同する力を磨くことに繋がっている。
- 2)「教育実習指導」においては、4名の教員で担当し、各教員の専門性を活かし展開している。学生が不安に感じたり、相談しやすいように授業内で時間を設け、個別に応じられるように丁寧な指導を心がけている。また学生たちが幼稚園現場のイメージを描きやすいように、現役で活躍する卒業生をゲストに招き、話をしてもらう卒業生講演を企画している。
- 3)学生支援では、每期1回必ず個人面談を実施し、相談できる環境の提供に努めている。また相談しやすいようにオフィスアワーの時間を周知し、相談の申し出があった場合は速やかに面談を設定するようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2024年度の学生による授業評価アンケートの結果はおおむね良好であった。明るい授業を心がけ、学生たちが楽しい雰囲気の中で学べるようにした。スライドでの提示、ホワイトボードの板書き、プリント穴埋め方式が好評だったので、続けたい。ただ説明が長い、わかりにくい、発表の準備の時間をしっかり取って欲しかったという意見もあったので、要点を絞った説明と余裕のある授業計画にしていきたい。学生支援については、時期ごとに個人面談を実施し、学生状況把握に努めた。2年生は希望の就職先に就職、既卒者1名は茅ヶ崎市公務員に合格した。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取り組みとして、学内でのFD /SD研修は進んで参加し、授業に反映し、授業評価アンケートは授業改善に役立てている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 学生の興味を引きつつ、かつ現場で活用できる魅力ある授業の実践
- 2) 一人ひとりの学生に寄り添った学生サポート

II. 長期目標

- 1) 持続可能な保育現場実現に向けた対応や教材開発
- 2) 保育現場や地域社会との連携

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜2限 表現の指導 cd/4【多胡 綾花】23323502】

模擬指導のグループやテーマ、スケジュール決めが課題となった。学生が主体的に取り組めるように準備の時間も考えていきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜1限 身体表現 a/3【多胡 綾花】31330501】

実技中心の実践的な授業

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜2限 身体表現 b/3【多胡 綾花】31330502】

こちらの授業は模擬授業がためになったと多くの意見があったので続けたいし、学生からの意見や視点も定説にしていきたい。一方、教え方がわかりにくかったという意見があった。つまづいている学生がいないかを常に目を配っていきたい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜3限 健康の指導 c/3【多胡 綾花】23321503】

このクラスだけ結果が低かった。発表準備の時間が少なかったとあったので、改善していきたい。また「授業して残り準備」としたことへの指摘もあった。どちらかに集中できるようにしたい。他、プリントにないスライドがあることに不安を感じる学生がいたので、注意したい。授業最後に実施した運動会が印象に残った、プリント穴埋め方式が良かったという意見があった。継続していきたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23321501	健康の指導
後期	保育	2	23321502	健康の指導
後期	保育	2	23321503	健康の指導
前期	保育	2	23323501	表現の指導
前期	保育	2	23323502	表現の指導
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	2	R3360003	保育実践研究
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	31330503	身体表現

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23321501	健康の指導
後期	保育	2	23321502	健康の指導
後期	保育	2	23321503	健康の指導
前期	保育	2	23323501	表現の指導
前期	保育	2	23323502	表現の指導
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	2	R3360003	保育実践研究
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	R7363001	保育プロジェクト

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	准教授		
教員氏名	赤井 裕美		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学保育学科の教員として、主に表現科目の「音楽」に関する授業を担当している。* 担当科目は別記のとおりである。
音楽科目は保育者を目指す学生が保育士資格、幼稚園教諭二種免許を取得するための必修科目であることから、実践的な技術や保育者として必要な表現力を身につけることを目的に指導している。
私の教育の責任は、これらの科目を通して、卒業後、表現力を持った生き生きとした保育者を育成することであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

- 1)自ら学ぶ姿勢を身につけられるようなアドバイスをすること。
- 2)社会人としてのコミュニケーション能力を育成すること。
- 3)技術的なことのみならず、子どもと関わる上で大切なあたたかい心や表現力を養うこと。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考え(教育の理念)を実現するため、授業内・授業外を問わず、個々の学生に穏やかにあたたく接することを心掛けている。
特に「音楽実技Ⅰ」、「音楽実技Ⅱ」では、個人授業(レッスン)であることから、必要なマナー(挨拶や話し方)を含めた指導がしやすいため、非常勤講師と連携を取りながら学生に細やかに関わるよう心掛けている。また、現場で必要とされている技術を身につけるべく、個々のモチベーションが高まり、自発的に練習することができるような声かけ、指導を心掛けている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

より個々の学生に合わせた課題に取り組ませたことで、他者と比較して気持ちがマイナスになるような学生はいなかった。むしろ、「出来た」という達成感を覚える学生が多かったことが、振り返りシートから読み取れ、授業についてはアンケートからも概ねの学生から「満足」という評価を得られた。今後も非常勤講師と連携を取り、学生のニーズを取り入れながら充実した授業を進めていきたいと考える。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取り組みとして、相互授業参観など他の教員の授業を参観する機会から多くのことを学んでいる。学生からの授業評価アンケートの他、授業後に毎回提出させているリファレンスシートを活用し、可能な限り次の授業に反映させるよう心掛けている。
今後の教育に関する目標については次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 授業内容に関して、学生の理解度に合わせて説明のしかたを変えることで、学生がスムーズに内容を取り込みやすいようにする
- 2) eラーニングの動画コンテンツを提供することで、学生が自発的に学べるようにする。

II. 長期目標

学生には、保育現場の現状に合わせた細やかなアドバイスを送ることで、卒業後はそれぞれの持ち場で社会に貢献できるような明るくあたたかな心を持つ人になるよう育成する。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜2限 音楽表現_b/4【赤井 裕美】31332002】

毎回、演奏する上での留意点や表現の仕方などを詳しく説明する時間を設けたことにより、「音楽実技Ⅰ」の個人レッスンがスムーズに進むのに役立った、との回答がいずれのクラスでも多かった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜2限 音楽表現_a/4【赤井 裕美】31332001】

楽譜を読む上での必要な事柄を説明する時間に関して「ややわかりにくい部分があった」との回答があったことは、説明の仕方をさらにさらに噛み砕く必要があるのかと感じた。改善していく。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜3限 音楽実技Ⅰ_a/3【赤井 裕美】R2331001】

1年間のノルマとなる課題曲の見直しを行った。特に、夏休み期間に課題曲のレッスン動画を視聴させ、自主学習を促すしくみにしたため、これまで後期には慣れからか進度に遅れがみられていたが、大きく改善できたように思う。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜1限 音楽実技Ⅱ_b/2【赤井 裕美】R2332502】

非常勤講師の采配について、次年度からの見直しを行うこととした。選択科目であるため、今年度からより自由度を増したノルマ課題としたことで、ピアノ専門以外の講師による指導では学生からも「物足りなさを感じる」等の意見が出ていた。また、やる気を削ぐような発言があったとのことで、教員の担当科目の見直しを行うこととした。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	1	R6LA1101	湘北リベラルアーツ I
通年	保育	2	R2332501	音楽実技Ⅱ
通年	保育	2	R2332502	音楽実技Ⅱ
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	2	R3360005	保育実践研究
通年	保育	1	R2331001	音楽実技Ⅰ
通年	保育	1	R2331002	音楽実技Ⅰ
通年	保育	1	R2331003	音楽実技Ⅰ
通年	保育	1	31332001	音楽表現
通年	保育	1	31332002	音楽表現
通年	保育	1	31332003	音楽表現
通年	保育	1	31332004	音楽表現

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ(総合・生活)	1・2	R6LA1101	湘北リベラルアーツ I
後期	リベラルアーツ(総合・生活)	1・2	R6LA1301	湘北リベラルアーツⅡ
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
通年	保育	2	R2332501	音楽実技Ⅱ
通年	保育	2	R2332502	音楽実技Ⅱ
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	2	R3360005	保育実践研究
通年	保育	1	R2331001	音楽実技Ⅰ
通年	保育	1	R2331002	音楽実技Ⅰ
通年	保育	1	31332001	音楽表現
通年	保育	1	31332002	音楽表現
通年	保育	1	31332003	音楽表現
通年	保育	1	31332004	音楽表現
通年	保育	1	R7363001	保育プロジェクト

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	准教授		
教員氏名	池田 拓馬		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は湘北短期大学の保育学科に所属しています。主に造形表現に関する科目を担当しています。幼稚園教諭の免許状や保育士資格の取得を目指す学生のみなさんに、子どもにとっての造形表現の意義とは何かまたその指導の提供方法等、実践的な技術や知識を身につけことを目的としています。専門は油絵や現代美術、幼児の造形表現です。

「造形表現」では美術や造形の基礎的な知識や技法から、子どもにとっての造形表現の意義などを伝えています。

「表現の指導(造形)」では、実際の保育現場で造形表現の指導を行う場合の留意事項やねらい、目的の設定方法など実践的な理論と方法の習得を目指しています。

その他にも「造形表現Ⅱ」「教育実習指導」「教育実習」「保育プロジェクト」を担当しています。また、サークル活動については学生祭実行委員会の制作部門の顧問をしています。学生の自主活動の指導に際しては、学生たちの想いを汲み取り後方からサポートすることで学生たちの自主性を尊重した指導を心がけています。

私の教育の責任はこれらの教育活動を通じ、学生の自己肯定感を育むことであると考えています。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

表現を行うということは、だれもが自分らしく人生を生きていく上でとても重要なことだと考えています。幼児期においては特に表現活動は大切なものになります。自らの表現と人も含めた周囲の環境との往還的な関わりによって自己肯定感が育まれ、その後の人生の様々な場面での学習の基盤が育まれます。美術や芸術という一見その出来栄えや見栄えに心を奪われがちですが、幼児期の子どもと造形表現を通して関わることは、出来栄えや見栄えにとらわれず、そのプロセスや思いに、行為そのものに着目しなければなりません。子どもの表現したいという思い、多くの人が自分らしさを表現しながら生きていけるような美術教育を目指しています。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

造形表現の授業では、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携方認定こども園教育・保育要領に示された、表現及び造形表現のねらいを丁寧に読み解くことで、乳幼児期における造型表現が技術の習得を目的としていないことを学生と共に確認します。また、子どもの描画の発達やについて理解と学習を深め、描画の発達の中で苦手意識を持つことが自然であることも紹介します。その中で、子どもの造形活動を支援する画材や用具の特質を学び使用方法についても実践的に習得し、演習活動においては絵画や造形の様々な技法の実践を行い体感的に学ぶことで自由に表現することの楽しさや素晴らしさを実感できるような授業内容を心がけています。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2025年度着任のため記載なし

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

出来栄や見栄にとらわれない造形表現の活動を目指すということは、目で見える芸術である美術にとって一見すると矛盾する考え方です。それゆえに見た目にとらわれない造形表現の発想方法や考え方、捉え方を体感的に習得することは難しい面もあります。実際に模擬保育の題材を学生が考える際には、SNS等のメディアで紹介されたものを応用することが多いと感じます。SNSの活用自体を否定するつもりはないですが、より多くの事例にたどり着いていかないことが問題だと考えています。そのため様々な保育や造形表現の実践例を紹介することで学生の学びに対する視野を広げ、教育の質の向上に努めていきたいと考えています。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
-----	----	----	-------	-----

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	23326501	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326502	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326503	表現の指導(造形)
前期	保育	2	23326504	表現の指導(造形)
後期	保育	2	R2330001	造形表現Ⅱ
後期	保育	2	R2330002	造形表現Ⅱ
後期	保育	2	R2330003	造形表現Ⅱ
後期	保育	2	23340004	保育・教職実践演習(幼稚園)
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	1	31329501	造形表現
通年	保育	1	31329502	造形表現
通年	保育	1	R7363001	保育プロジェクト

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	准教授		
教員氏名	小笠原 大輔		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は保育学科の教員として、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に科目を担当し、その中でも主に「身体表現」「保育実習・保育実習指導」に関する授業を担当している。「身体表現」では、子どものあそびを豊かに展開するための身体活動や身体表現に関する必要な知識や技術を体験を通して習得し、特に授業で学んだあそび内容や実践上の留意点、展開や応用方法、考察、自分で調べたことなどをノートにまとめ、実習や現場で活用できるようにすることを目標としている。「身体表現Ⅱ」では、1年次に学んだ身体表現の内容を更に深め、「自ら表現すること、他者の表現を受け入れて尊重すること、舞踊作品を創作し発表すること」を実践を通じて学び、広義の表現を理解することを目標としている。「保育実習・保育実習指導」では、保育所と保育士の役割を現場体験を通して理解し、保育士資格取得科目での学習内容を総合的に実践し、応用すること、保育実習Ⅰ(保育所)での学びを元に、さらに実践的な責任実習を立案・実践し、保育所と保育士の職務について理解を深め、保育士としての実践力を身に付けることを目標としている。

また、課外活動では福祉委員会、おどろあそびサークルの顧問として、想像力豊かに主体的に動くことを重視して指導している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の点を重視している。

1) 学生たちが受け身ではなく積極的に他者と関わり、かつその関わり自体に喜びを感じることができれば、社会人となっても短期的・長期的課題にも勇気と自信をもって仲間と立ち向かうことができるようになるであろうと考えられることから、コミュニケーション能力を高められるよう、グループワークの機会を増やすこと。

2) 多様性を認め合う社会に進み始めている今日において、人格形成の重要な時期である乳幼児期はその最たるものであるべきであり、将来そこに身を置く者として学生が、一人ひとりの違いを尊重し合える「開かれた空間」を大切にすること。

3) 価値観や環境などは時代と共に変化していくものであることから、今の学生・今の乳幼児とのずれが生じぬよう、研究と教育を繋げること。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上記の考えを実現するため、次のような工夫・方法を行っている。

- 1)「身体表現」「身体表現Ⅱ」「体育実技／理論」「おどろあそびサークル」では、仲間と共に工夫をし挑戦できるよう、一人では難しいが仲間となればクリアできるであろう適切な難易度の課題を課している。
- 2)「身体表現」「身体表現Ⅱ」「おどろあそびサークル」では、一人ひとり考え方や感じ方が異なることを理解し、その気づきから新たな喜びが生まれるよう、想像し、創造し、発表する場を多く設けている。
- 3)自身の研究の成果と教育現場における教育・実践が乖離せぬよう、「どう活かすか」を意識した研究を行い、可能な限り「いま・ここ」の冷めていない研究を遂行し、また自らも表現活動を学外にて実践することより得られる知見を学生へのフィードバックを行っている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2024年度の学生によるアンケートでは、グループ発表に対する記述、実際の写真や動画を教材に用いている点などに対する記述が多く、主体的な学びや実践的な学びに繋がったと考えられる。また「多くの人と関わる」ことができるよう、グループワークなどもかなり意識的にグルーピングに工夫を凝らしたが、その点に関して多くの学生が好意的に感じていることが判り、社会人にとって必要なコミュニケーションスキルを磨く良い機会となった。

またサークル活動では、全国大会への参加など短期大学ではなかなか経験できないことにも挑戦したことで、大きな自信に繋がっている。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

授業評価アンケートから、今の学生は「授業は答えを教えてくれるところ」と思い込んでいる者が非常に多いということが分かった。これまでの学習で主体的に考え、自ら課題を見つけ学ぶ経験が足りていないと考えられる。従って今後は授業のペースを落とし、ゆっくりじっくり学ぶ時間を設定する。また、他者の発表を非常に楽しみに感じているとともに、そこから大いに学びを得ていることが明らかになったことから、「受け身」ではなく主体的に学びに向かえるような「実践」形式の機会を増やす。

短期目標＞学生が課題提出においてICTを使いこなせるようにする。

長期目標＞グループワークの質と量の維持。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【金曜2限 体育実技/理論_a/3【小笠原 大輔】23310001】

試合をする際に固定のチームにならぬよう、毎回チームが絵を積極的に行ったことで、普段あまり話さない者同士での交流が深まった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜4限 体育実技/理論_b/3【小笠原 大輔】23310002】

体育館の環境が暑熱化における活動に適していないため、冷風扇および扇風機の積極的活用。それでも活動ができない状況であったため、教場を冷房設備のある741に急遽変更した。今後、今年のような夏期気温であれば、体育館での授業は不可能になると思われる。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜4限 保育実践研究_全【小笠原 大輔】R3360006】

「シラバスに記載されている 具体的到達目標について」であまり理解できなかった者がいたことから、噛み砕いたシンプルな表現にする必要がある。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜3限 身体表現_c/3【小笠原 大輔】31330503】

ポータルやe-learningだと戸惑うことが多いという声を学生から多く耳にしたため、GoogleClassroomに集約した。連絡や資料の配布などが非常にスムーズに行えた。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360006	保育実践研究
通年	保育	1	23310001	体育実技／理論
通年	保育	1	23310002	体育実技／理論
通年	保育	1	23310003	体育実技／理論
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
通年	保育	1	31330503	身体表現
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
通年	保育	2	R2330501	身体表現Ⅱ
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	1	23310001	体育実技／理論
通年	保育	1	23310002	体育実技／理論
通年	保育	1	31330501	身体表現
通年	保育	1	31330502	身体表現
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ
通年	保育	1	R7363001	保育プロジェクト

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	准教授		
教員氏名	亀井 美弥子		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、主に子どもの発達や学習への理解や子どもの援助、またそれを支える保護者に対する援助に関する授業および保育実習についての指導に関する授業を担当している。2025年度の担当科目は別記※のとおりである。子どもの発達や学習の理解および子どもと家族を含めた援助は、保育者の学びの根幹をなす部分である。

1年生科目の「環境の指導」の授業では、子どもの保育環境の大切さや科学的知識の獲得に向けた関わり方についての基礎知識や事例、また実践的体験(演習)を提供することで、乳幼児からの環境構成の重要性の理解とそれを自分自身で運用する力の養成を目標としている。

また「乳児保育Ⅱ」では前期に「乳児保育Ⅰ」で培った主に乳児期の理解に基づき、より実践的に、沐浴や調乳等、乳児の健康保持を目指した援助の具体的な技術を身に着けることを目的としている。

2年生の科目である「幼児の理解と相談」の授業では、学生が幼児の姿について理解したうえで、その問題の個人的・社会的背景について意識し、より広い視野のなかで幼児の発達や支援について学ぶことを目標としている。

また2年生の「保育実践研究」では前期では主に個人の関心に基づいたテーマの探究し、その知識を実践を通じてゼミのメンバーと共有することで、表現力や理解力、コミュニケーション力を培い、後期は前期のテーマをもとに、各自の関心をより明確な目的をもって探求する姿勢について学ぶことを目標とした。

選択科目の「地域子育て支援論」では学生が地域の子育て支援の現場に参加し、親子との関わりを通じて保護者支援について考察することを目標としている。

「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」では保育士および保育実習生としての心構え、また実際的な準備についてできる限り具体的に指導を行うことで、学生がスムーズに実習に参加できることを目指している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、保育に関する基本的な知識やスキルと共により広い視野と思考する力を持った保育者を養成することであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学の教育活動において次の3点を重視している。

1)先達の研究知見に基づき、基本的な知識を正しく理解できるよう丁寧に伝えること。

学科の特色として誤った知識や知識、理解不足によって子どもや保護者に対する不利益を生じさせかねない。まずは基本的な乳幼児やその家族の支援について正しく理解する重要と考える。理解や知識の習得は簡単なことではないので、何度も根気強く丁寧に伝えることが必要と考えている。

2)円滑に社会生活を行うためのコミュニケーション能力を身につけるための指導を行うこと。

基本的な知識を身につけている学生でも、経験不足からか、特に自分とは異なる属性(教員、職員、実習先の指導者)とのコミュニケーションの仕方を学べていない学生が見受けられる。社会に出る前にその点を指摘し、学ぶことが重要であると考えている。

3)自分自身の考え方を他者に伝え、共有することでお互いに考え方や知識の幅を広げることの大切さを伝えること。

対人ケアの現場では科学的な知識のみで問題解決することが難しい場面が多い。その時に他者と意見を交換し、どのような対応が当事者にとって重要なのか多数の視点から議論を行うことや、忙しい職場の中であっても、お互いに学びあうことが重要と考えている。そのため、学生のうちからこのような態度を身につけることの重要性を強調し、授業でもできる限り他者を尊重した意見交換の機会を設けていきたいと考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

1)「環境の指導」では基礎的な知識の習得と共に自分で実践してみることで子どもたち側の視点の理解や保育士としての知識の増大を目指している。そのために、実際に近隣の公園に行ってその体験をまとめたり、植物を育て、観察する体験などを取り入れている。それらの体験をグループごとに分かち合うことを行う。さらに、決められた学びのテーマに沿って保育が活動を考え、模擬保育を行っている。保育者役、子ども役、観察者それぞれの立場から意見交換を行い、将来保育者として行う学び合いの姿を体験できるようにしている。また「保育実践研究」「地域子育て支援論」でも少人数であるという授業の特性も生かして、経験を分かち合い話し合う時間を多く設けている。25年度から担当する「乳児保育Ⅱ」ではわかりやすく乳児のお世話の意義や手順を説明した後、実際に道具を用いて調乳や沐浴の実習を一人一人の学生の様子を見ながら丁寧に行う予定である。

2)「幼児の理解と相談」ではより広い視野を得るために、保護者の立場からの視点や外国人などマイノリティに関する視点をビデオ学習や事例研究などで導入し、基礎的な知識の理解の上に応用的な厚みを加えるような授業を行っている。また、より具体的な理解、知識とイメージをつなぐために動画などの視聴覚教材を用いている。また、できる限り個々のリアクションペーパーや、学生同士の意見交換を取り入れるなど、多様な見方や考え方を共有しあうことで知見の幅が広がるようにしている。

3)「保育実習Ⅰ、Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ、Ⅱ」では、保育者、保育学生としてのふるまい方を学び、理解することを目指している。例えば、「保育実習指導Ⅰ」において自身が主に担当となっている「保育ボランティア」は実習指導のカリキュラムのなかで子どもたちの関わりの学びだけではなく、実習の流れを理解し、保育学生としてのマナーやふるまい方に関する導入部に位置づく。実習の準備段階として、学生に対して保育実習生としての自覚やふるまい方を身に着けるよう指導し、スムーズな実習体験へとつなげている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度(2024年度は休職)の授業科目については授業の評価については、ほぼ平均的な数値であった。学生のコメントを見ると、「ためになる授業」「楽しい」というような好意的な評価が見受けられ、特にグループワークについては学生にとって満足度の高い授業になっていることが伺われる。

一方、やや高度な内容を扱う回もあるせいか、学生によっては理解が難しいという回答も見られた。引き続き、学生の幅に対応する授業を模索する必要があると感じている。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

I. 短期目標

1) 「環境の指導」「幼児の理解と相談」の授業内容についての再考

「環境の指導」では概念的な部分をできる限り実践に置き換えて伝えるように授業を構成する。「幼児の理解と相談」については授業のトピックが多岐にわたるが、それらをよりわかりやすくポイントを絞って伝えられるような内容にスライドやワークなどを含めて再検討していきたい。

2) 乳幼児の発達や子ども支援について、より深く興味を引き付けるトピックや講義の再考

学力や意欲が低い学生に対してして、主体的な学びに導く素材が必要である。ただ見ているよりも、学生が手を動かすなどの参加型の授業が有効であるのは事実なので、より工夫をしていきたい。

II. 長期目標

広い社会的視野を獲得するための態度を身につけた保育士・幼稚園教諭の養成まず最低限の知識や態度を身につけて資格を取ることが第一ではあるが、保育士・幼稚園教諭の社会的地位の向上を考えても、より学ぶ姿勢を持ち広い視野を身につけていくための態度の育成が必要である。

「保育実践研究」などを通じて日頃学力があまり高くないと見える学生でも、自分自身の関心のあるテーマについてはよく考え、意見を表明する意欲を感じた。保育に関連する問題や自分の関心に対してじっくりと学生がとりにくめるような授業内容を目指していきたいと考えている。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
-----	----	----	-------	-----

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23324501	地域子育て支援論
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360007	保育実践研究
前期	保育	2	31328001	幼児の理解と相談
前期	保育	2	31328002	幼児の理解と相談
通年	保育	1	23322001	環境の指導
通年	保育	1	23322002	環境の指導
通年	保育	1	23322003	環境の指導
通年	保育	1	23322004	環境の指導
後期	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	准教授		
教員氏名	高橋 雅人		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、主に福祉系の科目を担当している。
2024年度の担当科目、および教育の責任は以下の通りである。

- ①「社会福祉」では、保育士が社会福祉をなぜ学ぶのかという理由を理解することからはじめる。授業を通じ、私たちの生活の中で福祉が今後どのように発展していくべきなのか、保育士になるにあたり一人ひとりが興味・関心を抱くことができるようになることを目指している。
- ②「子ども家庭福祉」では、子どもや家庭、地域を支援する保育者として必要な子ども家庭福祉の制度や実施体系の知識を習得し、子ども家庭福祉が今後どのように発展していくべきなのか、一人ひとりが興味・関心を抱くことができるようになることを目指している。
- ③「社会的養護Ⅰ」では、社会的養護に関する基本的な知識を習得するとともに、児童福祉施設で勤務するために必要な人間性、職業倫理を身につけることを目指している。また、施設保育士が子どもを支援するうえで必要な「施設養護の支援内容」の理解をとくに重要視している。
- ④「社会的養護Ⅱ」では、施設保育士が行う支援内容、求められる職業倫理や資質を身につけることを目的とする。とくに、虐待を受けた子どもの支援については、演習を通じて具体的ななかかわり方を習得することを目指している。
- ⑤「子ども家庭支援論」では、子育て家庭に対して行う保育士の相談技術、活用する社会資源の習得、保育士の役割について理解することを目的としている。実際に子育て家庭に起きている様々な問題は、事例をもとに解決力を習得できるようにし、実践力となることを目指している。
- ⑥「保育実践研究」では、研究テーマの最終発表にそなえ、仲間と協力して調査・研究すること、語彙力を増やし口頭発表などで発信力を高めることを目的としている。また、施設見学を行い、各種施設への見識を深めることを目指している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、保育現場で即戦力となる人材を養成することである。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重要視している。

- 1) 保育現場で即戦力となる専門性の習得。
- 2) 事例を活用し、実社会を意識した理論と実践の提供。
- 3) 双方向授業を心がけ、自ら考え学ぶ力の育成。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、担当する授業において次のような工夫、方法を行った。

- 1) 保育現場で即戦力となる専門性の習得。
保育現場で即戦力となる人物は自己研鑽に励んでいる。現場経験を振り返ると、自ら学ぼうとする意欲にあふれていた若手職員は即戦力となっていた。専門性を高めようと努力する人材を養成するための契機として、授業内容に関連した新聞記事を毎授業で提供した。新聞記事は、e-ラーニングに載せ配信した。
- 2) 事例を活用し、実社会を意識した理論と実践の提供。
現場の新たな問題をテーマとした事例研究を授業で用いた。グループワーク、ペアワークの演習を多用した。問題解決力を身につける事例を多用した。
- 3) 双方向授業を心がけ、自ら考え学ぶ力の育成。
講義系の授業が主であるため、一方的にならない工夫として、次の2点を活用した。
 - ① フィードバックペーパーの活用。フィードバックペーパーは授業への質問や感想を記入してもらい、必ず返信した。
 - ② 各授業ごとにテーマを掲げた（一例として社会的養護Ⅰでは、「不安を抱えている子どもに、あなたならどうやって安心を与えますか」）。そのテーマの回答を学生が自ら考えるよう毎授業で問いかけた。最終レポートで導き出した答えを提出してもらった。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2024年度の授業評価については、担当する科目で満足度が高評価を得た。好意的なコメントは、「実際あった出来事だと身近なものという感じがして頭に入りやすかったです」など、実務経験を活用した授業への評価が書かれていた。今後も、現場のエピソードを授業に取り入れることは学生のニーズとして受けとめ、学生の理解が深まっていくよう自身の見識をアップデートしていきたい。また、「新聞の配信」も良かったところとして挙がっていた。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

(授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り等について、5-2に記載)

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜3限 社会的養護Ⅱ_c/4【高橋 雅人】31325503】

15回を通して「愛情を受けていない子どもについて理解する」というテーマを設定した。評価はこのテーマについての理解度をはかるとしたため、学生は取り組みやすかったと思う。また、教員の解説や事例に取り組むだけでなく、読みやすい書籍を教材として使用したことも良い評価に繋がったと思う。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜3限 子ども家庭福祉_a/2【高橋 雅人】31313501】

- ・質問をしやすい声かけや時間を設ける。
- ・復習用の新聞記事について検討する。自主的に復習できるように記事の内容や他の書籍なども取り入れたい。
- ・授業内容に理解を深める教材、資料を増やす。一方的な授業にならないように教材や資料を増やしたい。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜3限 子ども家庭支援論_b/2【高橋 雅人】31320002】

自由記述に「新聞期zの内容が面白かったので授業で取り入れてほしかった」というのがあった。授業内容に関連した新聞記事だったので、その場で学習教材として使用したほうが効果があったと感じた。次年度から授業内で取り入れていくようにする。また復習用としても引き続き使用していきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜4限 社会的養護Ⅰ_b/2【高橋 雅人】31314502】

- ・本科目では、専門知識を教えるだけでなく、施設実習前の不安を取り除くより具体的な現場の内容を提供した。さらに、学生が最も不安に感じている、施設で暮らす子どもたちとの接し方について、毎授業で実際に現場であった事例を取り入れたためだと思われる。
- ・今年度は自身の教え方を変えてみた。ネガティブな事例(失敗したこと、悲しい思いをした子どもの話しなど)は最小限にし、学生のやる気に繋がるような話題(授業の導入時に必ず褒める、子どもの長所の見つけ方など)を多用したためと思われる。
- ・本授業ではテーマ(施設で暮らす子どもの不安を安心に変える方法を考えよう)を設定し、そのテーマについて考察したことを最後にレポートで問う形式をとった。テーマに沿って授業を進行したため、目標も明確になり、学生のモチベーションを保つことができたのだと思う。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	保育	2	31320001	子ども家庭支援論
後期	保育	2	31320002	子ども家庭支援論
前期	保育	2	31325503	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325504	社会的養護Ⅱ
後期	保育	2	23353501	保育実習Ⅲ
前期	保育	2	23354001	保育実習指導Ⅲ
通年	保育	2	R3360009	保育実践研究
前期	保育	1	23312501	社会福祉
前期	保育	1	23312502	社会福祉
前期	保育	1	31313501	子ども家庭福祉
前期	保育	1	31313502	子ども家庭福祉
後期	保育	1	31314501	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1	31314502	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	保育	2	31320001	子ども家庭支援論
後期	保育	2	31320002	子ども家庭支援論
前期	保育	2	31325501	社会的養護Ⅱ
前期	保育	2	31325502	社会的養護Ⅱ
通年	保育	2	R3360008	保育実践研究
前期	保育	1	23312501	社会福祉
前期	保育	1	23312502	社会福祉
前期	保育	1	31313501	子ども家庭福祉
前期	保育	1	31313502	子ども家庭福祉
後期	保育	1	31314501	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1	31314502	社会的養護Ⅰ
後期	保育	1	23351501	保育実習Ⅰ(施設)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	准教授		
教員氏名	田中 あかり		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学において、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に関わる科目を担当している。中でも保育の内容や方法に関わる「保育内容総論」「保育・教育課程論」「乳児保育Ⅱ」、及び保育の対象の理解である「子ども家庭支援の心理学」、保育の目的に関わる「保育者論」を担当している。また、幼稚園教諭の経験及び幼稚園での実践研究の経験を活かし、「教育実習指導」を3名の専任教員と共に行っている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。1)生きる主体として子どもの姿を捉え、自ら考え問題を解決しようとする力の育成、2)子どもの発達に関する専門的知識、及び具体的な技術の習得とその根拠の理解、3)保育者の専門性の理解と目指す保育者像の探求。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育理念を達成するため、例えば「子ども家庭支援の心理学」においては単なる知識としての理解にならないよう、実際に生きる子どもと家族のドキュメンタリー映像を授業で多く使用している。そして映像資料をもとに受講生同士が意見を交換する機会を重視し、今を生きる子どもたちの難しさに対してどのような環境が必要であるか考える時間を大切にしている。

「保育・教育課程論」では、教育課程の作成や具体的な指導案の作成にあたって、子ども理解、中でも子どもの発達についての理解がであることを重視し、子どもの発達の様子を映像資料やプリントを使って丁寧に講義している。その上で学生が作成した指導案について個別にコメントをしながら返却し、学生が疑問を解消しながら理解を深めていけるようにしている。

「保育者論」では、2年間の学びの集大成として、これまで学んできた保育者の専門性を整理し意識できるような授業を展開している。この時、単なる専門性について言葉だけの羅列にならないよう、保育現場の実際の映像を用いて授業を行い、自分の考えを発表する機会を多く持っている。自分を見つめ、他者の考えを通して新たなことに気づき、目指す保育者像を持てるような授業を目指している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

【2024年度前期授業評価アンケート】及び【2024年度後期授業評価アンケート】より、例えば子ども家庭支援の心理学については、「映像を見ることで興味深く学べた」「映像を見たことで考えが深まって良かった。」といった映像を見ながら学ぶ授業についての良い評価が多かった。また映像資料だけでなく、実際授業中で行った子育ての話良かった点として挙げる受講生が多く、映像資料に限らず生きた資料（映像資料や教員の子育ての話）は学生の学びや授業に対する積極的な姿勢に繋がると考えた。また毎回座席を変え、異なる受講生と意見を交換するようにしたことに関する評価も高かった。主体的な学びに繋がったと考える。

また、乳児保育Ⅱについては、「講義と演習のバランスが良かった。」「説明時に実際にやって見せて教えてくださったり 動画など見て授業したりしていたので分かりやすかった。」といった感想が見られた。子どもの発達についての理解を重視し、丁寧な講義をした上での実技を心がけた方向性は良かったと考える。

さらに、保育者論についても「自分を振り返ったり見つめ直したりする機会が多かったので、自己分析や自分が今後どうなりたいかを考えるきっかけを多く設けられていて良かった。」「他の人の考えなども聞くことができたので学びになった。」といった感想が多く見られた。自分を見つめ、他者の考えを通して気づき、目指す保育者像を持つという目標は全員ではないと思われるが一定数の学生は実現できたのではないかと思う。

一方で、アンケートより改善して欲しい点としては、「もっとグループワークがあると良かった」「Google フォームなどを使用して気軽に意見を交換できると良かった」などの指摘もあった。意見交換の方法に対しては例年様々な意見があるが、教員が捉えていた以上に学生はグループワークによる学びを実感しており、希望していると思われる。指導の方法と方向性を確認しながら進めていきたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

昨年度と同様ではあるが、相互授業参観週間や複数名の教員で行っている授業では、他教員の授業の良い点から学ぶように心がけている。他教員からは話し方や資料の使い方だけでなく、大事にしていることや学生とどのように向き合っているのか、教員としての在り方を学ぶように心がけている。授業評価アンケートについては自由記述欄も全て読むようにし、改善点については別用紙に書きだし、次年度の授業に活かすようにしている。また、授業の前後に直接学生に授業に対する感想を聞いたり、定期的に授業内でも感想用紙を配布回収したり、学生の意見を聞くことを大切にしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

1) 1コマあたりの授業目標を明確にし、その目標に向かって、講義、映像視聴、グループワーク、調べ学習、発表など複数の方法を利用して、学生が主体的に深く学ぶことができるようにする。

2) 全ての授業において、学生が人や社会との繋がり中で生きていることを実感し、現代的な問題に意識を向けることができるよう、社会状況や学問上の新しい情報を取り入れながら授業を行う

3) 学生同士の学び合いを重視し、授業の目的や内容、学生の特性を配慮した上で、デジタル機器を含む多様な方法で学生同士の学び合いの機会を増やしていく。

II. 長期目標

1) 授業の中で効果的にデジタルやIT機器を活用し、より魅力的な授業を創造する

2) デジタルやIT機器の活用以外にも、新しい教育の在り方を模索し、効果的な教育方法を取り入れていく

2) 自らの研究内容と結果を授業で活かしていく

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜1限 保育内容総論 a/3【田中 あかり】31321001】

より学生が主体的に学ぶ授業にすることを目標に授業の内容や方法を変えました。1つは第1回～3回の授業ですが、教員が話すことを書き移すだけになっていた授業を、簡単には答えが出ないような問題を始めに提示し各々考えるところから出発する授業に変えました。もう1つは第1回から9回の授業ですが、前年度までと比較して大幅にペアワークやグループワークの時間を増やしました。またペアやグループづくりも遊びの要素を入れて楽しく気分転換をしながら授業に集中できるように工夫しました。その結果、授業評価の中には特にペアワークやグループワークへに対しての良い評価がありました。後期の授業でも続けたいと思います。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜2限 子ども家庭支援の心理学 a/2【田中 あかり】31361501】

改善したいことは3つあります。①学生同士が意見を交換する時間をより多く取ること:グループワークを大切にしたい授業でしたが、特に後半、話し合いをする時間を取ることができませんでした。教員が伝える内容を精査し、学生が意見を交換し学び合える時間をもっと取りたいと思います。また隣だけではなく、もう少し大きな人数で話し合いたかったという意見がありました。グループワークは2人ではなく3人～4人で行うようにしてみたいと思います。②映像資料と授業内容の繋がりを丁寧にする:映像資料と授業内容の関連が伝わっていない学生がいました。アンケートでは1人ですが、1人でもそう思っていたのであれば、十分でなかった可能性があります。見直したいと思います。③学生への回答にGoogleフォームを利用する:科目の特性として答えにくい質問なども授業ですることがありました。話せる範囲で良いこと、話さなくてもよいことなどを伝えて質問していました。また実際Googleフォームも使用して授業をしていましたが、答えにくいものは匿名が良かったという感想がありました。来年度はGoogleフォーム等で匿名で答える機会をもう少し増やそうと思います。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜3限 保育者論 a/2【田中 あかり】23316201】

授業評価アンケートより、改善するべき点として、①グループワークを増やすこと、②期末課題の再設定の2点が挙げられます。特に①グループワークを増やしてほしいという意見は今年度複数見られました。確かに授業内容が多く時間が足りない場合、グループワークを省略し、数人の学生に意見を述べてもらうのみということがありました。また2年次になると学生同士の関係が悪化しているグループもあり、グループワークを躊躇してしまったところがあります。しかしながら、グループワークをもっとしたかったという意見は複数ありましたので、来年度は人間関係に配慮しつつももっと積極的に取り入れていきたいと思っています。②の期末課題の再設定については、例年と課題は変えていないのですが、確かに採点をしながら、正答率が下がっていることを感じました。該当する授業の回の内容を改めると同時に、期末課題の内容を再検討したいと思います。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【金曜1限 保育・教育課程論 b/2【田中 あかり】31315502】

「保育教育課程論」の授業では、今まで以上に、講義の回は学生にも発言してもらいながら丁寧に指導案の書き方を伝えるようにしました。また、添削した指導案は一人一人、どうしてそのように書いたのか理由なども聞きながら丁寧に返却するようにしました。その結果、「指導案の書き方がよく分かった」「自信を持って書けるようになった」といった評価や、例年以上に「一対一でコメントをしながら返却してもらえて良かった」という評価がありました。特に一対一でコメントをしながら指導案を返却してもらえることについての良い評価には①学生数が減り、一人ずつにかけられる時間が増えたこと、②一対一での指導を学生がより望むようになってきていること、が要因として挙げられるのではないかと考えます。来年度も本授業に限らず様々な場面で、一人一人と向き合うことを大切に、指導していきたいと思っています。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23316201	保育者論
後期	保育	2	23316202	保育者論
前期	保育	2	31361501	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2	31361502	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	2	R3360010	保育実践研究
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
通年	保育	1	31321001	保育内容総論
通年	保育	1	31321002	保育内容総論
通年	保育	1	31321003	保育内容総論
後期	保育	1	31362501	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362502	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362503	乳児保育Ⅱ
後期	保育	1	31362504	乳児保育Ⅱ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	保育	2	23316201	保育者論
後期	保育	2	23316202	保育者論
前期	保育	2	31361501	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2	31361502	子ども家庭支援の心理学
前期	保育	2	26350001	教育実習
前期	保育	2	26350501	教育実習指導
通年	保育	2	R3360009	保育実践研究
後期	保育	1	31315501	保育・教育課程論
後期	保育	1	31315502	保育・教育課程論
通年	保育	1	31321001	保育内容総論
通年	保育	1	31321002	保育内容総論
通年	保育	1	31321003	保育内容総論

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2024	～	2025
所属学科	保育		
職名	講師		
教員氏名	平岡 秀美		

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学保育学科の教員として、保育士資格及び幼稚園教諭に主免許の取得にかかわる関連科目を担当している。とりわけ、「教育学」「教育方法」の分野を中心に教育を行っている。将来、保育者として幼児教育に従事することを目指す保育学科の学生が、保育所・幼稚園の次の子どもの進路としての小学校以降の教育機関の概要を捉え、幼保小連携の意識した視野の広い保育を検討していくことが重要であると考えている。そのため、たとえば「教育原理」では幼児教育学にかかわる古典・理論の紹介にとどまらず、そこから見た学校教育制度の課題の探求を目指している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、大学で学ぶ教育学関連科目は教職を志す学生にとって、「何時何処でもこうすればよい教育を行うことができる」完全マニュアルを授けることはできないと考えている。そもそも「よい」授業とは何かについて、教育学という学問においても、教育現場においても、共通の合意が得られているわけではないからである。私は大学の教育原理などの役割を、教育実践における「つまずき」を、その背後に働いている理論に照らして考え、省察的に教育実践を捉え直すような実践学としての教育学であると考える。この考えのもと特に重要視していることは、教育方法上の課題を所与のものとして提示するよりは、むしろ学生間、ならびに学生と教員との間で協働して課題探求的に見出すことである。これにより、学生が自律的に考え、それを他者との共有によってさらに省察し続けていく発展的な力を養うことができると考えている。学生が授業で学んだ教育の理論を「マニュアル」ではなく「地図」として土台にしつつ、現実の時にうまくいかない教育実践の道のりを自分の頭で考えて歩む手助けをしていきたい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

「教育原理」の授業においては、授業そのものを講義ではなく、学生グループの発表に基づくシンポジウム形式で行い、全体としてジグソー法を用いたディスカッションを中心にした授業構成を行っている。
「教職概論」の授業では、教科書を指定せずに「教育新聞」や「日本教育新聞」、その他新聞を用いて、NIE(Newspaper in Education)教育を行っている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

特に理論や思想を学ぶ場合、学生は教員に対して受け身になりやすいが、上記の授業方法により学生からの質問、疑問から授業を展開することができている。新聞記事を中心教材とすることにより、学生はアクチュアルな保育・教育問題について自らの考えを持つことができ、意欲と主体性を向上させている。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

昨今の保育・教育現場の変化に対応できるよう、また社会人としての教養の観点から、授業のICT化を目指し、電子機器を用いたディスカッションを取り入れているが、その使用に困難を感じている学生も散見される。コンシェルジュへの相談の促しだけでなく、授業内でも丁寧に追加説明を行っていきたい。

また、思想や理論の理解は学生にとっては難解に感じるところが多いようである。とはいえ、「教育原理」という授業の性質上、取り扱うことを避けることはできない。そのため、教員による具体例の提示やエピソードトークを交えて、理解を促したい。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜3限 教育原理_b/2【平岡 秀美】23315002】

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜4限 教育原理_a/2【平岡 秀美】23315001】

重要視したことは、「教育実践上の課題を所与のものとして提示するのではなく、学生間、ならびに学生と教員との間で協働して課題探求的に見出すこと」である。具体的な教育方法として、以下のようなジグソー法を応用した反転学習とディスカッションを中心としたシンポジウム形式での授業を行なっている。すなわち、①配布資料精読にもとづく事前の個別予習(教員が資料についての論点を提示し、学生が分担して各自考えをまとめる)、②個別予習にもとづく授業内グループ・ディスカッション、③代表グループによるプレゼンテーション、④プレゼンテーションにもとづくクラス全体での議論、⑤担当教員による資料解説・論点整理・問題の再提起、⑥質疑・応答時間という構成である。資料に関する教員の提示した論点に沿った予習→授業内でのシンポジウムでの受講者の論点提示を繰り返し、最終的な到達目標(期末課題)として、学生自身が資料に対して自ら問いを設定し、自分達自身の考えをまとめることを目指している。こうした授業を通じて、学生が自律的に考え、それを他者との共有によって省察し続けていく発展的な力を養うことを目指した。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜2限 教育方法論 a/2【平岡 秀美】23327501】

授業冒頭に学生企画によるアイスブレイクとその相互講評活動を取り入れたことにより、学生の実践的な学びについての満足度が向上したと思われる。説明についての言葉が難しい等の意見が見られるため、より噛み砕いた説明を行うといった改善方策をとりたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2024年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	31316001	教職概論
前期	保育	2	31316002	教職概論
後期	保育	2	31361001	教育の制度と経営
後期	保育	2	31361002	教育の制度と経営
後期	保育	2	23340003	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360011	保育実践研究
前期	保育	1	30312101	現代の人間関係分析
前期	保育	1	23315001	教育原理
前期	保育	1	23315002	教育原理
後期	保育	1	23327501	教育方法論
後期	保育	1	23327502	教育方法論
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

7-2. 担当授業一覧(2025年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	保育	2	31316001	教職概論
前期	保育	2	31316002	教職概論
後期	保育	2	31361001	教育の制度と経営
後期	保育	2	31361002	教育の制度と経営
後期	保育	2	23340003	保育・教職実践演習(幼稚園)
後期	保育	2	23352501	保育実習Ⅱ
前期	保育	2	23353001	保育実習指導Ⅱ
通年	保育	2	R3360010	保育実践研究
前期	保育	1	30312101	現代の人間関係分析
前期	保育	1	23315001	教育原理
前期	保育	1	23315002	教育原理
後期	保育	1	23327501	教育方法論
後期	保育	1	23327502	教育方法論
後期	保育	1	23351001	保育実習Ⅰ(保育所)
通年	保育	1	23352001	保育実習指導Ⅰ

以上